

子宮頸部の病理(1)
子宮頸部感染症

岩破 一博

Summary

内子宮口から外子宮口までの部分で、子宮頸管粘膜に炎症を起こす局所的な炎症を子宮頸管炎という。基本的に腔内の感染と同様の病原体で、トリコモナス原虫、カンジダ、ヘルペスウイルスなどが感染を引き起こす。一方、子宮頸管内の主に円柱上皮からなる部分では、粘液膿性子宮頸管炎としての淋菌感染やクラミジア感染、マイコプラズマ感染を引き起こす。骨盤内炎症性疾患(PID)や産道感染が問題となる。

Key words

子宮頸管炎

粘液膿性子宮頸管炎

クラミジア子宮頸管炎

淋菌性子宮頸管炎

はじめに

子宮頸部とは、子宮の下部3分の1の管状部分、内子宮口から外子宮口までの部分で、子宮頸管粘膜に炎症を起こす局所的な炎症を子宮頸管炎という。外子宮口から外の部分に感染を引き起こすのは基本的に腔内の感染と同様の病原体であり、トリコモナス原虫、カンジダ、ヘルペスウイルスなどが感染を引き起こす。一方、子宮頸管内の主に円柱上皮からなる部分では淋菌やクラミジア感染を引き起こすことになる。子宮頸管は膈管を通して外界と、また子宮内膜、卵管を通して腹腔内と交通しており、子宮頸管炎は上行性感染の経路として重要で骨盤内炎症性疾患(pelvic inflammatory disease ; PID)や産道感染が問題となる¹⁾。

妊婦では、種々の病原微生物の感染により早産や破水の原因になることが多いので頸管内の炎症細胞や炎症自体を評価することが必要で、顆粒球エラスターゼが保険収載され、流・早産、絨毛膜羊膜炎なども子宮頸管炎が関与している。

症状と徴候

子宮頸管炎は症状を起こさないこともあるが、最も頻度の高い症状は、黄色や緑色の帯下(子宮頸管分泌物)の増加および月経と月経の間または性交後の性器出血である。性交痛、外陰および膈の刺激症状、排尿困難を認める場合もある²⁾。

Kazuhiro Iwasaku

京都府立医科大学医学部看護学科医学講座産婦人科学教授